

子どもを安心して生み育てるためには、さまざまな社会的支援が必要です。今日では、子どもと子育てを支える制度の充実が図られ、全国一律で多くの子育て支援サービスが提供されていますが、北海道でも、地域の特性などを十分に生かし、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりを進めています。また、身近な生活の場である地域での子育て支援は、子育ての不安や悩みの軽減、子育て仲間との交流など、多くの人たちとのかかわりの中で子育てができるため、子育て家庭にとって大きなサポートとなっています。子どもと子育てについて理解を深めるとともに、将来、子育てをする時に、どのような支援や環境があれば安心して子どもを育てることができるのか、考えてみましょう。

## 1 子育てをめぐる状況

妻の年齢が50歳未満の夫婦を対象とした調査によると、夫婦にとって理想的な子どもの数(平均理想子ども数)は、第9回(S62年)調査以降、徐々に低下しています。直近の第14回(H22年)調査では、最も少ない2.42人となっており、また、実際に持つつもりの子どもの数(平均予定子ども数)も、調査開始以降初めて2.1人を切り、2.07人となっています。

予定子ども数が理想子ども数を下回っている夫婦は全体32.7%であり、およそ3組に1組の夫婦は理想をあきらめています。その理由として最も多いのは、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(60.4%)となっています。

とりわけ30歳未満での若い世代で多く、83.3%がこの理由を選択しています。また、30歳以上になると「高齢で生むのはいやだから」「欲しいけれどもできないから」などの年齢・身体的理由の選択率が高くなっているほか、30代は「育児負担」が他の年齢層に比べて多くなっています。

### ●平均理想子ども数と平均予定子ども数の推移

	第7回(S52)	第8回(S57)	第9回(S62)	第10回(H4)	第11回(H9)	第12回(H14)	第13回(H17)	第14回(H22)
平均理想子ども数	2.61	2.62	2.67	2.64	2.53	2.56	2.48	2.42
平均予定子ども数	2.17	2.20	2.23	2.18	2.16	2.13	2.11	2.07

出典:国立社会保障・人口問題研究所「H22出生動向基本調査」

### ●妻の年齢別にみた、理想の子ども数を持たない理由

項目		計	～29歳	30～34歳	35～39歳	40～49歳
経済的理由	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	60.4%	83.3%	76.0%	69.0%	50.3%
	自分の仕事に差し支えるから	16.8%	21.1%	17.2%	19.5%	14.9%
	家が狭いから	13.2%	18.9%	18.9%	16.0%	9.9%
年齢・身体的理由	高齢で生むのはいやだから	35.1%	3.3%	13.3%	27.2%	47.3%
	欲しいけれどもできないから	19.3%	3.3%	12.9%	16.4%	23.8%
	健康上の理由から	18.6%	5.6%	15.5%	15.0%	22.5%
育児負担		17.4%	10.0%	21.0%	21.0%	15.4%
夫に関する理由	夫の育児への協力が得られないから	10.9%	12.2%	13.3%	11.6%	9.9%
	末の子が夫の定年まで成人してほしいから	8.3%	5.6%	4.3%	6.9%	10.2%
	夫が望まないから	7.4%	4.4%	9.9%	8.9%	6.2%
その他		12.8%	18.9%	17.2%	15.6%	9.8%

出典:国立社会保障・人口問題研究所「H22出生動向基本調査」

予定子ども数の平均値は2を超えているものの、実際の若い世代の平均出生子ども数は、それを実現できるペースよりも低く、希望を確実に実現できると考える夫婦は2割以下と少ない状況です。

予定と現実の差が生じる要因としては、収入が不安定なことなどの経済的な理由や、年齢や健康上の理由で子どもができないことなどの身体的な理由があります。また、家事・育児の協力者がいないといった育児支援の欠如も、子どもを2人持ちたいと考えている夫婦では、その要因の一つとなっており、男女ともに子育てをしやすい環境を実現するためには、特に男性(父親)の育児への理解と積極的な参加が大変重要です。

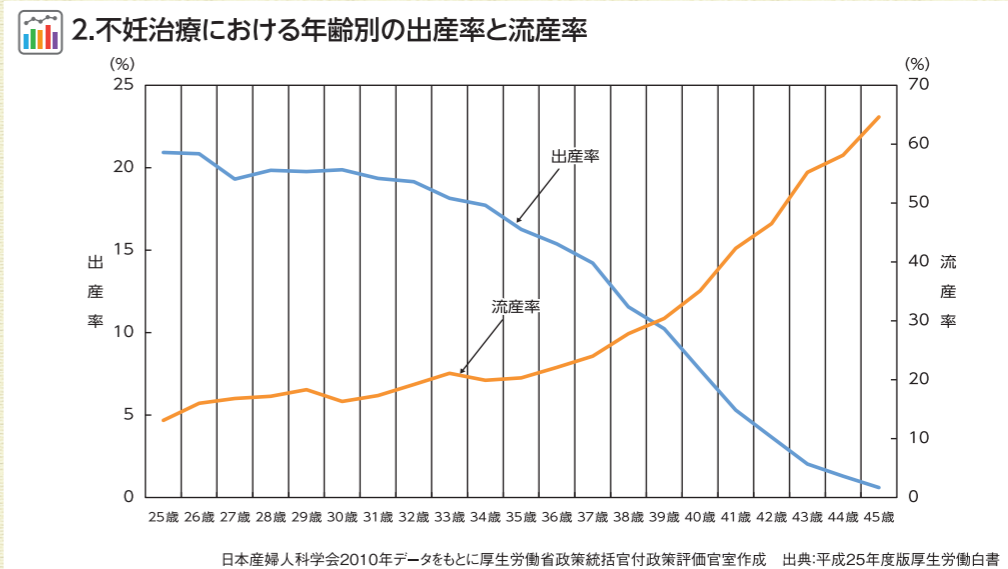
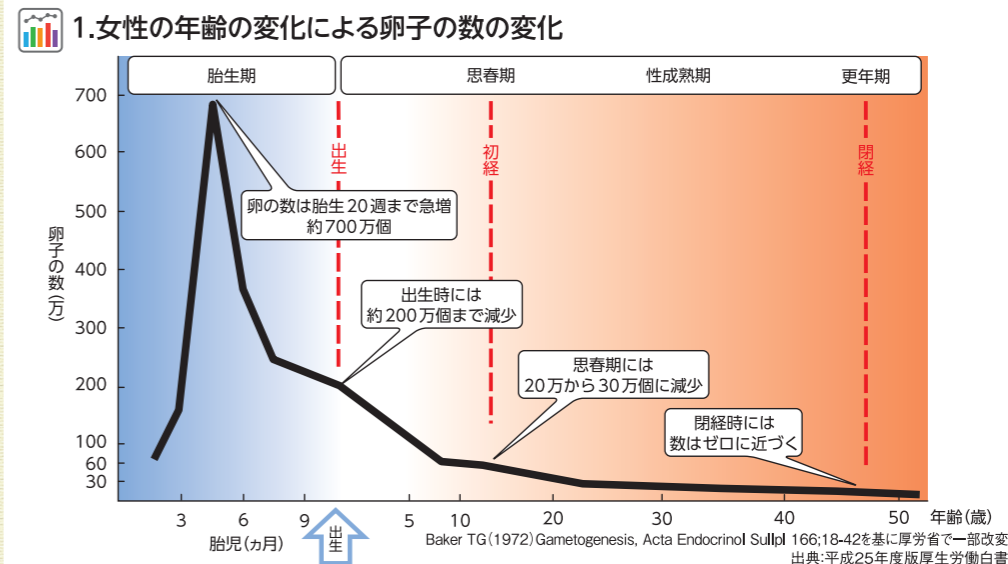
## トピックス

### 自分のからだのこと、知っていますか？

20代から30代は、仕事を始め、キャリアを積み重ねている途中であったり、家庭を持ったり、社会の中で自分の役割が充実する重要な時期です。平均寿命の伸びや医療の進歩により、いつでも子どもを持つことができると思いがちですが、医学的には、男性・女性ともに妊娠・出産には適した年齢があります。

男性の精子は思春期以降1日に数万個作られ、日々新しい精子が生まれますが、女性の卵子は出生後新たに作られることはありません。下図のとおり、卵子の数は胎児の頃が一番多く、その後減少していきます。さらに、女性が年齢を重ねると同様に卵子も年齢を重ね、加齢とともに質や量が低下していきます。

このため、女性が自然に妊娠する力は30歳頃からは下がり始め、35歳頃からは流産率が上昇するほか、妊娠中の異常の発症頻度や子どもの染色体異常のリスクなど、妊娠・出産のリスクも高まるようになってきています。また、不妊治療を受ける方は年々増加していますが、年齢が高くなるほど、不妊治療を行ったとしても出産に至る確率が下がることが明らかになっています。



年齢と妊娠・出産の関係は、女性だけの問題ではなく、男性も加齢とともに妊娠率が低下します。これから社会に出るみなさんの多くは、仕事をする、自立することへの関心や不安が大きく、子どもを持つことはまだ遠い未来の話に感じるかもしれません。

子どもを持つか持たないか、いつ持つかなど、どのような選択をしてもそれはその人の生き方として尊重されることが大切です。そのためには、年齢と妊娠・出産の関係を理解し、正しい知識を持った上で、自分のライフプランを考えていくことが重要です。自分のからだに関心を持ち、大事にしましょう。